

観光地点検

奈良県立大学地域創造学部講師

岡本 健

「アニメ聖地」サミット開催 単一コンテンツから多様な展開

アニメの舞台になった地域が旅行者の目的地となり、観光振興が行われることは本欄で何度も紹介している。その際、作品の著作権者と良い関係性を築くことが重要とされる。今回登場する豊郷小学校旧校舍群は、アニメ『けいおん!』の舞台としてファンの間で有名で、たくさんの人が訪れている。ところが、豊郷町は作品の舞台地として公式には認められていない。地域の景観を舞台とした作品でありながら、景観を使ったことを認めないこと自体に議論の余地はあるが、今回注目したいのはその点ではない。

その地域に価値を見いだすかどうかを決めているのは、著作権者でも地域でも観光産業でも

ないことこそ注目すべき点だ。そもそもアニメの舞台を巡る「聖地巡礼」はファンによる行動。聖地巡礼という用語が使われている点も作品に強い思い入れがある人の行動であることを示す。旅行者が観光目的地を決定し、それによってコンテキストが形成される事例なのだ。

町で聖地サミットを開催

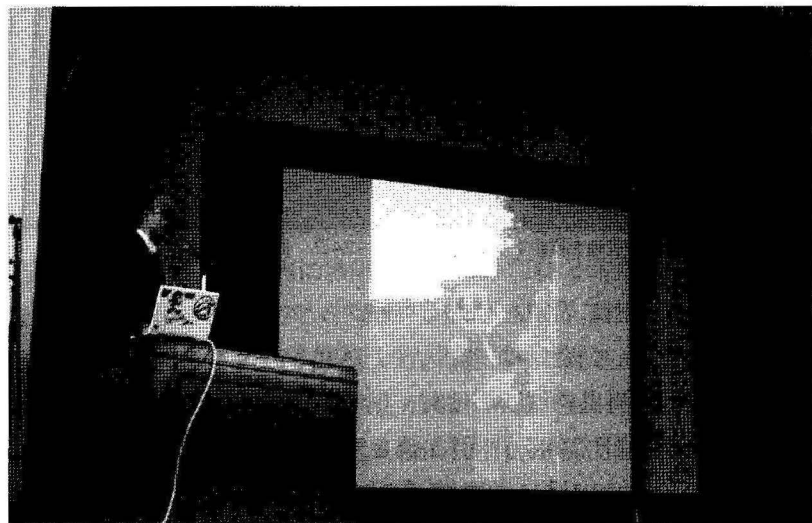
現在、日本全国にあるアニメの聖地の数をご存じだろうか。アニメファンによるアニメの舞台のアーカイブサイト『舞台探訪アーカイブ』に登録されている作品数を見ると1,024に上る。

こうした状況に注目し、豊郷町は「全国アニメ聖地サミット in 豊郷」を企画した。『けいお

B級グルメ、ゆるキャラ、ご当地アイドル、ご当地ヒーロー…。近年、一つの取り組みから、ジャンルが創出されることが見られる。「天空の城」現象もその一つだ。特に有名なのは、兵庫県朝来市にある竹田城跡。雲海が発生した際、城の下部が隠れ、空を飛んでいるように見えることから「天空の城」と呼ばれ、様々なメディアで取り上げられた。その後、同様の現象がみられる他地域がこぞって「天空の城」と銘打ち始めたのだ。

ファンが決める「聖地」

これは、一つのコンテンツが「物の見方」を提示したことで、同様の見方ができる他の物がコンテンツ化することを意味する。寺岡伸悟（奈良女子大学 教授）は『観光メディア論』（ナカニシヤ出版）の中でそれを「コンテキスト」と名づけた。今回はコンテキストを活用した滋賀県豊郷町の取り組みに注目する。



山村高淑教授の講演

ん!』の舞台として有名な豊郷小学校旧校舍群で、2014年11月23日(日)に実際に開かれた。

筆者が前説を担当し、オープニングセレモニーでは町長がスピーチ。基調講演では、コンテンツツーリズム研究の権威である山村高淑教授(北海道大学大学院)と、アニメ聖地巡礼プロデューサーの柿崎俊道氏が、異なる立場から自説を展開した。その後、アニメ聖地の事例発表、大学院生による研究発表、アニメファンによる舞台探訪の成果発表の3つの分科会が開かれ、それぞれ盛況であった。当日の運営には普段から豊郷町を訪れているアニメファンも加わった。

関係構築の積み重ね

今回、これほど多様なアクターを集めることができたのは、豊郷町役場産業振興課の清水純一郎課長補佐によるところが大きい。清水氏は普段から豊郷小学校に通い、来訪してくるファンと対話したり、ファンによる表現物を写真に収めてブログで公開したりするなど、来訪者とのつながりを密にしている。また、学生の研究にも非常に協力的であり、インタビューや現地での質問紙調査なども積極的に対応している。

かく言う筆者も、博士論文を執筆する際に使用したデータを取るために清水氏には大変お世話になった口であり、今回本イベントの企画に名前を連ねさせ

てもらったのもその時からのご縁があったからだ。さらに、清水氏は観光やコンテンツ関係のセミナーやフォーラムに積極的に参加し、様々なネットワーク



大学院生の発表を熱心に聴く参加者

を作り、何か相談したいことができた時に相談できる人脈を構築していた。クリエイター育成のためのセミナー響創塾を企画した和田昌之氏(エクスアーツジャパン株式会社代表取締役社長)は、そうした人脈での紹介によって今回の企画に参加している。

様々な興味をたばねる

こうした内容のイベントで、当日は700人を超える来場者が訪れた。純粋にイベントへの来場者数として見るならば、こ

の数は特筆すべき多さではないかもしれない。ただ、この700人の中にはコンテクストをよく理解し、さらにコンテンツを生み出し得る人々が多く含まれていることを忘れてはな

らない。イベントの最後には懇親会が開かれたのだが、そこにはアニメを活用した取り組みを起こそうという方や、既にイベントを企画している方などが集まった。やる気と行動力のある様々な立場の人々が集い、情報交換とネットワーク作りがなされた。

G

今後のポイント

こうした、コンテクストを束ねる取り組みの課題は、コンテクストそれ自体が廃れてしまうことだ。例えば、現在のご当地キャラクター。今のところ、くまモンやふなっしーといった全国的な知名度を持つ人気キャラクターが活躍し、ゆるキャラグランプリも盛況で1700近いキャラクターが参加しているが、注目されるキャラクター(コンテンツ)が出てこなくなった時、

「ゆるキャラ」というコンテクスト自体が人気を失ってしまうだろう。

コンテクストが維持されるためには、面白いコンテンツが継続的に出てくることが重要だ。今回サミットに集まった人々の中から新たな企画が生まれてくるとともに、サミットも二回、三回と継続し、それぞれの地域が切磋琢磨できるような場となることが望まれる。